

## 第79回全国都市問題会議 参加研修レポート

立志会所属知立市議会議員 風間 勝治

今回私は、平成29年11月9日（木）・10日（金）に、沖縄県那覇市（沖縄県立武道館）で開催された第79回全国都市問題会議（主催 全国市長会、公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所、同日本都市センター、那覇市）に、立志会、公明党会派所属議員6人で参加しました。講演研修の概要をここに報告します。

今回の都市問題会議のテーマは、「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略 ―新しい風をつかむまちづくり―」であります。

11月9日、第1日目は午前9：30からの開会行事の後、まず午前9：50分からの基調講演として、山本博文東京大学史料編纂所教授による「多様性のある江戸時代の都市」の講演があり、次に午前11：00分からの主報告として、城間幹子沖縄県那覇市長による「ひと つなぐ まち ―新しい風をつかむまちづくり―」の講演を受けました。午後1：10分からは、一般報告として、山下祐介首都大学東京大学院人文科学研究科准教授による、「人口減少社会の実像と都市自治体の役割―人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か?―」、次に2：40分より一般報告として、蝦名大也北海道釧路市長による「自然と都市が融合し、共生が地域の価値を高めるまちづくり」、続いて、一般報告として、下地芳郎琉球大学観光産業科学部長・教授による「新たなステージに入った沖縄観光 ―複合的な魅力を有するハイブリッドリゾートへ―」を受け、1日目の日程が終了しました。

11月10日第2日目は、午前9：30分より、パネルディスカッションとして行われ、テーマは、「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略 ―新しい風をつかむまちづくり―」として、後藤春彦早稲田大学理工学術院教授をコーディネーターとして、パネリストに、能作株式会社能作取締役、藤田まちとひと感動のデザイン研究所代表、平田沖縄文化芸術振興アドバイザー、山岸福井県勝山市長、染谷静岡県島田市長の意見交換が行われました。午前11：50分に2日目の日程も終了し、全日程が終了しました。

詳しい内容は、参加資料の冊子にまとめられており、今後それぞれの報告内容を分析し、知立市に合う政策などを導入できるか、市の政策に反映できるのか、十分に検証して、多くの先進事例をもとに、よりよいまちづくりに向けての議論に臨んでいきたいと考えています。

その中で、今会議の主テーマであります都市の魅力が解説されています。まずそのコンセプトをしっかりと把握することが肝心であると思います。最初に、都市がどのような場であるのか、それぞれの都市の起源には相違がありますが、「ひとが集う場」であるという共通点を有していることと指摘されています。多くの人が集い繁栄してきた都市の経過があります。その繁栄するための魅力とは、「都市が持つ、人を引きつけ、集わせる力の総体」と理解しているようで、そのうえで、都市のいかなる要素が、ひとを引きつけ、集わせ、繁栄に繋げられるのかが大きなポイントとして存在していると問うています。

もともと都市は、ひとが日常的な経済需要を、市場を通じて満たす場であり、商工業やサービス業が行われ、企業や工場が集積し、経済活動の効率性を高めるとともに、ひとの空間的集中をもたらしています。また、政治・行政機能や各種インフラを始めとして、集中した人々の生活を支える諸機能も集積しています。さらに都市には、実に多様な人々が集まって活動しており、多様性がうまれる場となっています。このような諸機能の集積とそこで生まれる多様性こそが「都市の魅力」であり、程度の差こそあれ、各都市は、これらの利益を享受することで発展を遂げてきたと指摘しています。

では、具体的にどのような機能が集積し、都市の魅力を形作っているのかでは、「経済的魅力」、「生活的魅力」、「文化的魅力」、「社会的魅力」の4つに分けることができそうです。「経済的魅力」は、都市の有する経済的なメリットであり、就労の機会を得て、商いを行うことで都市の経済的恩恵を享受している点、「生活的魅力」は、生活の場としての要素であり、居住の快適さや生活の利便性、余暇の充実等が上げられる点、「文化的魅力」は、都市が蓄積してきた文化を基盤として、芸術や伝統、歴史、知識に接することのできる点、「社会的魅力」は、ひとの交流にまつわる要素であり、多様な社交の機会を得て、あるいは社会参加を通じて、生きがいを感じる点等ということになります。

今会議のコンセプトが、都市の魅力と繁栄で、「都市が持つ、ひとを引きつけ、集わせる力の総体」として、色々な角度・視点からの魅力あるテーマが解説され、都市の繁栄のヒントが記載されていますが、私は、まずは住民にとっての魅力とは、を押さえておきたいと考えています。

住民にとっての都市の魅力とはどのようなものか。住民にとっての魅力は、「活躍できる都市」、「住み続けたい都市」に集約できるそうです。

まず、活躍できる都市となるためには、都市の経済的魅力を高めていく必要があるとのこと。そのためには、魅力的な雇用の創出や企業支援など、住民が仕事を通じて自己実現を図ることのできる環境の整備が重要と指摘しています。従来産業政策は、国や都道府県が

中心となり担ってきましたが、6次産業化や地場産業振興など、都市に内在する資源を組み合わせ、新たな価値を創造することが求められており、地域経営の主体である都市自治体に対する期待は大きいと説明しています。

次に住み続けたい都市となるためには、都市の生活的魅力と文化的魅力が重要となることでもあります。都市計画や道路・インフラの整備等による快適な住環境の確保、子ども・子育て支援や高齢者福祉などライフステージに応じた医療・福祉の充実、バスや鉄道等の公共交通網の構築は、都市の生活的魅力を高める上で欠かせないものであるとしています。また、芸術や文化に身近に接し、質の高い教育を受け、生涯学習の機会に恵まれるというような文化的魅力も大きな要素と指摘しています。

更には、活躍できる都市、住み続けたい都市となるためには、社会的魅力も重要となることでもあります。近隣住民との親睦、趣味を同じくするひととの交流、公共的な活動への参加など多様な社会参加の機会が存在することであり、これらを通じて、生きがいを感じることは、住民にとって大きな魅力となると指摘しています。

今ひとつは、ひとのつながりが高める都市の魅力を再確認しておきたいと思います。都市を訪問し、あるいは、都市に居住する以上、まったく他者との関わりを持たずにいることは当然困難といえます。日本では、都市に限らず、古くから自治会、町内会や商店会などの地域コミュニティが形成され、住民間の親睦や相互扶助が行われてきています。沖縄ではこのようなものを「ゆいまーる」ということばで表現され、重要なものと位置づけられているようです。地域コミュニティの存在は、住民の生活に安心を提供し、またそれ自体が社会的魅力となり得るものであります。さらに、地域コミュニティの活動が、都市の生活的魅力や文化的魅力の創出につながった事例も多く存在しているようです。

具体例としましては、景観まちづくりをあげています。湯布院のまちづくりは、ゴルフ場建設計画に反対する地域住民の運動から始まり、条例によるルールづくりへ発展した事例として有名であるそうです。那覇市においても、都市景観条例のもとで、首里金城地区、龍潭通り沿線地区、壺屋地区において、地域住民の発意によって、歴史的景観の保全が行われているといえます。このほか、地区計画や建築協定を活用して、地域の良好な生活環境を保全しようとする取り組みも全国的に見られるということでもあります。

また、祭りや伝統芸能もまた、地域コミュニティによって支えられており、文化的魅力の創出に一役買っているとしています。山車が巡行する全国の33の祭りが、山・鉦・屋台行事として、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことは記憶に新しく、これらの祭りの多くが、地域コミュニティによって、山車の制作や保全が行われ、伝統行事として脈々と受け継がれてきたものであるとしています。

しかし現在、社会環境の変化に伴い、多くの都市自治体において、町内会・自治会の加入率が低下傾向にあり、地域コミュニティの衰退やひとの結びつきの希薄化が危惧されています。今日、都市におけるひとのつながりの力をいかに高め、都市の魅力の創出につなげていくかが問われていると指摘しています。

知立市では、まず先程紹介された、知立の山車文楽・からくりという国の重要無形民俗文化財が、昨年12月に、ユネスコの3大事業の一つであります、無形文化遺産に一括登録されました。地域コミュニティの活性化が、都市の魅力を高めていく上で欠かせないものであるなら、正に当市は、知立の宝が、世界の宝になった大偉業が決定され、機運が最高に盛り上がっているところでありまして、この一大快挙をしっかりと活用した取り組みが、ひいては文化的魅力の創出につながると考えます。また、知立駅周辺整備事業においての地区計画の導入や計画的な商業集積の確保、ひとの交流ができ易い道路整備などで、都市の生活的魅力や社会的魅力につながると考えます。

現在地方創生が国の主導で進められてきていますが、地域の創生においては、政策のこれが正解は無いと思います。それぞれの地域で自治の成り立ちや運営、特性に相違があることは当然でありまして、知立市では、知立の成り立ちや住民のニーズ、自治運営の背景や地域性などを十分に分析して、知立の特性を踏まえて、いかなる政策が求められているのか、絶えず議論をして、また実施中の政策が効果を挙げているかを検証しながら、活動を進めていければと考えています。

今後はこのような都市の魅力と発展につながる基本コンセプトをしっかりと持ち、また今回の参加資料や、講演で聞いた多くの参考事例や多様な視点・考え方などを十分参考にし、検証・整理して、市当局と、議会や協議会等で十分に議論して、政策合意形成を図り、市民のための意思決定、政策決定が的確にきるように努力して行きたいと思っています。

その上で、当市にあった、市民のための具体的で的確な、条例や政策の立案を積極的に行って、市政の発展や市民福祉の増進に繋げていければいければと考えています。

以上で、2党派合同研修として参加しました、第79回全国都市問題会議の講演・研修の概要報告と致します。